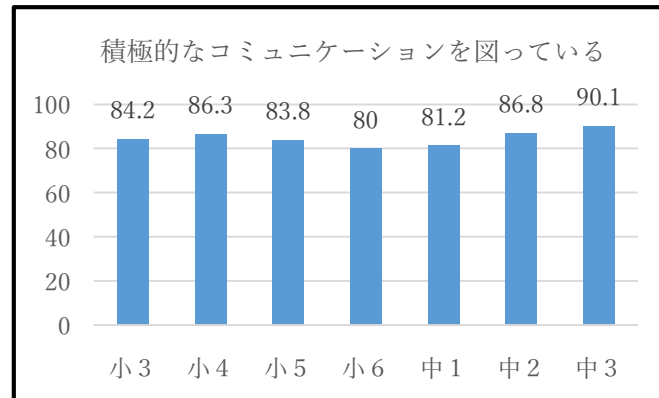
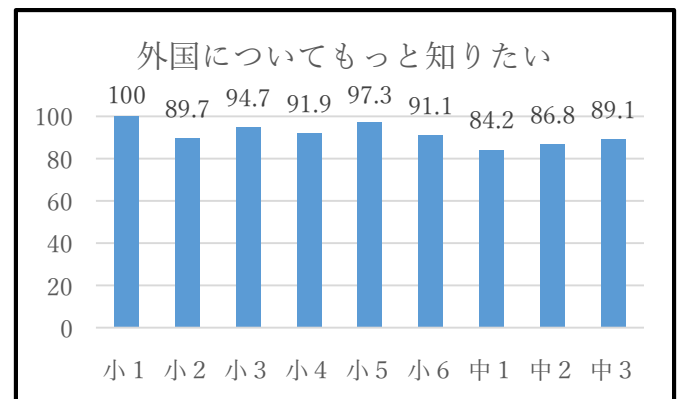
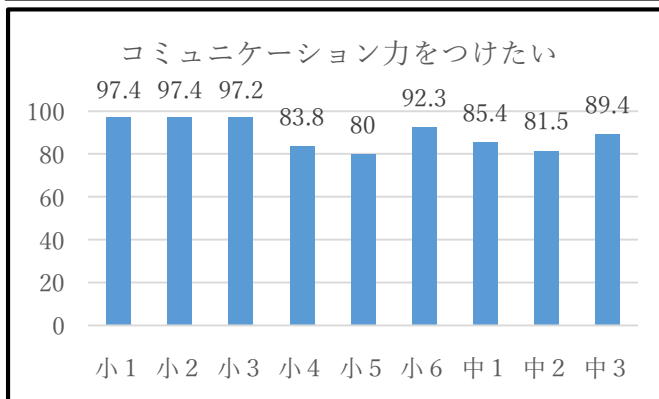
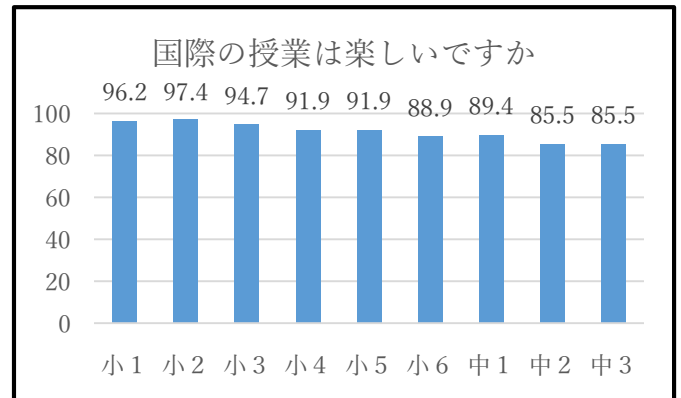
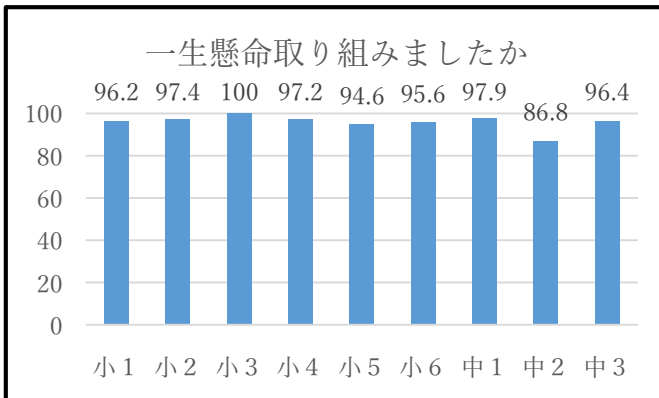


1 児童・生徒意識調査（令和6年12月実施）結果から



○数値はそれぞれの質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合 (%)

小・中学校とも、どの学校も概ね一生懸命学習に取り組もうとする姿がうかがえた。学級による差が大きく、全体として肯定的な回答率が伸び悩んだ学年がいくつか見られた。学習のモチベーションの持たせ方、基本的な学習習慣のあり方を話し合いながら指導に当たってきた。

2 NRT（英語）の結果から

小学校5、6年生で実施している「どきどき CommunicationTime」は2年目を迎え、戸惑いながらも英語によるコミュニケーションを楽しもうとする姿が見えるようになり、5年時、6年時と回を重ねるごとにコミュニケーションへの意欲が高まっている。学習した内容を実践する経験を積むことの大切さを感じる。中学生については、外国人とのオンライン交流を目標に、学年毎に指導過程に変化を持たせ、学習意欲を喚起してきた。中学校1年生については、スピーチ発表、ALT とのインタビュー活動为目标に学習を進めてきたが、より効果的な表現活動を創作したい。

小、中学校ともに、自らコミュニケーションを図ろうとする積極性や活動に自発的に取り組むことの弱さが見られた。

(1) 小学6年生

- ① 5段階比率 5 (12 %) 4 (27 %) 3 (39 %) 2 (22 %) 1 (0 %)
- ② 4領域における全国正答率との比較 (全国を100とした場合)
聞くこと (107) 話すこと (109) 読むこと (106) 書くこと (96)
- ③ 観点別における全国正答率との比較 (全国を100とした場合)
知識・技能 (107) 思考・判断・表現 (104)

平均偏差値は比較的良好な結果だった。3の段階以上の児童が78%、3、4、5の段階の児童が厚い分布になっている。全体的に聞くこと話すことを中心に基礎的な知識、技能が定着している状況であるが、「書くこと」の領域の正答率は全国平均を下回った。

昨年4月に実施した新中学1年生のNRTの結果分析をもとに、小学校5、6年生では、基本的な事項を繰り返し練習させ定着を図るために、単語ジングル、Sing & Chants、音読をルーティン活動として毎時間実施してきた。基礎的な事項の定着、ボキャブラリーの広がりが図られた。ルーティン活動を中心に、授業をある程度定型化することで、児童が授業の流れを理解し、見通しを持って学習に取り組み、発表にも自信を持って臨む姿が見えるようになってきた。単元末に一人ひとりが学級全体の前で自己表現したり、コミュニケーションしたりするパフォーマンスにも抵抗なく取り組めるようになった。

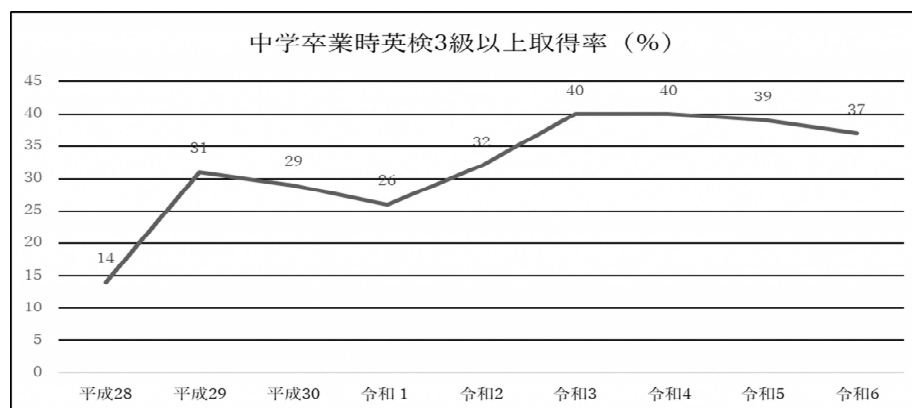
授業で学習した内容を「どきどき Communication Time」で実際に活用する経験をすることで、コミュニケーションに対するモチベーションが高まり、楽しみながら学習に向かう姿が見られるようになった。

(2) 中学生 NRT (英語) 結果の推移と英語検定3級以上合格状況

ここ数年のNRT結果を見ると、学年が上がるにつれ成績が向上し、指導の効果がうかがえる。特に「聞く」「話す」分野での伸びが見られる。中学2、3年生では「国際」の授業のまとめとしてオンライン海外交流を設定している。オンライン海外交流を目標に、コミュニケーション重視の授業を積み上げることで、生徒が目的意識を持ち、モチベーションを高めながら授業に取り組んでいる。通常の英語の授業で培った知識、技能をコミュニケーション重視の「国際」の授業で実践活用させる指導を進めていきたい。

中学校の英語担当者が、小学生のどきどき Communication Time 等の授業交流を通して小学校での指導への理解を深め指導に生かすこと、特任講師を中心に中学校の英語指導と小学校での指導の系統性や継続性を意識した指導の工夫をさらに進めていきたい。

英語によるコミュニケーション力の力試しの場合として、本町では英語検定への受験料を補助し、積極的な挑戦を奨励している。ここ数年は、英語検定3級以上を取得して中学校を卒業する生徒が40%前後で推移している。3級、準2級にも挑戦する生徒が出てきている状況にある。白い森学習支援センターでは英語検定合格講座を開講し、生徒の積極的な参加を呼びかけている。受講した生徒の合格率は高い。



3 令和7年度全国学力・学習状況調査結果から

(1) 小学6年生 調査結果

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	5年生までに受けた授業でPC、タブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか	65.0 (35.3)	12.9 (14.1)	24.5 (25.2)

*数値は「ほぼ毎日」と回答した児童の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
2	自分がタブレットなどのICT機器で文章を作成することができると思いますか。	87.5	29.5	46.7
3	インターネットを使って情報収集できると思いますか。	97.5	90.0	89.8
4	自分がタブレットなどのICT機器を使って情報整理（図、表、グラフ思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。	97.5	90.0	89.8
5	自分がタブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成できると思いますか。	85.0	66.3	69.3

No	質問項目	本町	山形県	全国
6	5年生までの学習の中で、タブレット等のICT機器を活用することについて、次のことはどれくらい当てはまりますか。			
(1)	自分のペースで理解しながら学習することができる。	87.5 (86.3)	81.9 (86.0)	81.3 (85.5)
(2)	分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。	95.0 (94.1)	88.9 (92.3)	89.2 (92.1)
(3)	楽しみながら学習を進めることができる。	85.0 (84.3)	86.0 (85.6)	85.6 (86.0)
(4)	画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよく分かる。	92.5 (84.3)	90.2 (91.0)	88.1 (89.8)
(5)	自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる。	87.5 (82.4)	76.5 (77.4)	77.6 (79.2)
(6)	友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	92.5 (86.3)	81.8 (83.8)	84.6 (86.1)
(7)	友達と協力しながら学習を進めることができる。	95.0 (84.2)	70.7 (86.5)	68.6 (86.2)

*数値は「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童の%

(2) 小学6年考察

授業でのICT機器の活用は、県、全国と比較しても進んでいることが確認できる。今年度は活用スキルに対する意識調査が行われたが、ワープロ機能の活用に対する意識は突出して高かった。情報推進部の進める基本フォームによるタイピング指導の成果と思われる。昨年度の調査から、活用することを前提として、どのような活用の仕方に効果を感じているのかを調査する設問が加わっている。全ての観点で機器活用の利便性を感じていることがわかる。指導計画に則り、確実に授業を実施し、子ども達の機器活用能力を適切に評価しながら、活用をさらに推進したい。小国町に新規転入された先生方で、地区内他市町とOSの違いがあることで戸惑いがあり、活用が停滞しているケースがあるとの報告がある。校内で、機器活用の仕方についての情報交換が日常的に行われる体制作りを進めたい。また、ICT支援員を配置して2年目になる。支援員の活用状況を確認しながら、より効果的な活用を模索したい。

今年度は現在まで小学生によるネットトラブルは報告されていないが、情報モラルや家庭でのネット管理等にも気を配りたい。

(3) 中学3年生 調査結果

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	1, 2年生の時に受けた授業でPC、タブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか	62.8 【67.8】	36.8 【55.1】	53.2 【64.4】

*数値は「週3回以上」と回答した生徒の% 【 】内の数値は昨年度中学3年生の数値

No	質問項目	本町	山形県	全国
2	自分が・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができますか。	90.7 (48.8)	83.1 (35.8)	83.6 (36.4)
3	インターネットを使って情報収集できますか。	95.4 (69.8)	92.6 (53.6)	91.5 (48.4)
4	自分が・タブレットなどのICT機器を使って情報整理(図、表、グラフ思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか。	60.5 (23.3)	62.2 (19.5)	63.3 (21.1)
5	自分が・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか。	79.0 (48.8)	76.7 (33.4)	76.6 (31.8)

*数値は肯定的な回答した生徒の%

* ()内の「とてもそう思う。」と強く肯定的な回答をした生徒の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
6	学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれぐらいの時間PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。(遊び等の目的に使う時間は除く。)	35.0 【39.3】	32.5 【28.5】	31.6 【36.4】

*数値は「30分以上」と回答した生徒の% 【 】内の数値は昨年度3年生の数値

(4) 中学3年生考察

機器活用は今年度も県、全国の使用状況を上回る状況になった。情報の授業で培ってきた活用スキルが大いに生かされた結果である。しかし、昨年度との比較では、授業でのICT機器の活用が減少している。本町で使用しているOSと長井市、飯豊町、白鷹町で使用しているOSが異なることが、新規転入者の機器使用の妨げとなっているとの指摘もある。減少している要因を各校で検討し、さらに活用を推進したい。

家庭での学習への機器の活用はやや停滞気味である。学習の個別化、最適化の視点からも多くの教科での活用が望まれる。ナビマの活用研修を実施するなどして、授業での活用を推進し、家庭での活用につなげていきたい。

今年度の調査では、活用スキルに関する質問が盛り込まれた。小学6年生に対しての意識調査では県、全国の数値に対して明らかな優位性が見られたが、中学3年生では優位性がはっきりと見られない結果となっている。活用する機会が多いが、活用の仕方が検索や情報収集などに偏っていないか、文書作成、情報整理、プレゼンテーション等多様な活用が図られているかを再確認したい。活用が常態化する中で、より効果的な活用のさせ方など、活用の質的な向上を目指したい。

情報の指導計画に則り、確実に授業を実施し、基礎的な活用力を高めながら、教科横断的に一層の活用推進を図りたい。そのためにも、校内で機器活用の仕方についての情報交換や共通理解が日常的に行われる体制作りを進めたい。

今年度は現在まで中学生によるネットトラブルは報告されていないが、家庭での約束づくりやその遵守については意識の低下が見られるとの認識がある。情報モラルや家庭でのネット管理等にも気を配りたい。